

小田野家武家屋敷: 仙北市指定史跡

小田野家は、今宮家を介して角館の領主であった佐竹北家に仕えました。この屋敷は小田野直武（1749-1780）の子孫が所有していました。小野田直武は、日本で最初に日本語に訳された西洋医学の教科書「解体新書」の図版を描きました。解体新書は、もともとは *Anatomische Tabellen* というドイツの解剖学の本がオランダ語に訳されたものでした。

一般公開されている現在の屋敷は、1900 年に焼失されたもとの江戸時代の住宅のデザインを保持しています。優雅な京都風の庭園として有名な小田野家の前庭には、背の高いモミとカエデの木、ショウブ、ササが植えられています。このような庭は、江戸時代（1603-1867）の終わりの武家屋敷で一般的にみられました。